

台湾南部地震に関する緊急報告会を開催しました（2016/2/8）

テーマ：2016年2月台湾南部地震

URL：http://irides.tohoku.ac.jp/topics_disaster/2016_taiwan-eq.html

2016年2月6日、台湾南部でM6.4の地震が発生し甚大な被害が生じていることを受け、災害科学国際研究所では、2月8日（月）に1階多目的ホールにおいて、今村文彦所長司会のもと、専門家が同地震に関する分析・解析結果を発表し、また、情報交換および今後の調査支援についての検討を行いました。各発表の題目は、以下の通りです。

- 遠田 晋次（災害理学研究部門）：「台湾高雄・美濃地震の地震学的・地質的背景」
趙 大鵬（災害理学研究部門）：「台湾南部地震 震源域の3次元地殻構造」
大野 晋（災害リスク研究部門）：「地震動について」
王 欣（災害リスク研究部門）：「建物被害について」

遠田教授は、これまでの台湾南部における地震の履歴および今回の特徴を発表しました。趙教授は、ユーラシアプレートの沈み込みおよび脱水が、今回の地震発生に関係したと考えられる旨を述べました。大野准教授は、地震動の分析に基づき、今回、過去の甚大な被害域より地震動が少なかったことを指摘しました。また、王助教は、今回の地震による建物の損傷の特徴について発表し、低層部分に店舗などの大空間がある建物に被害が集中している事象について述べました。

当研究所では、この地震災害に関する解析・情報収集を進め、公開しております。

http://irides.tohoku.ac.jp/topics_disaster/2016_taiwan-eq.html

本ページは随時、情報を掲載してまいります。



会場の様子



遠田教授



趙教授



大野准教授



王助教



取材を受ける様子

文責：中鉢奈津子、鈴木通江（広報室）

写真：鈴木通江（広報室）